

# ふてしこ

12 '18  
No.277

巡回通信誌



## びぼうろく 「備忘録 (memorandum)」

名誉院長 西田 敬

「茶話」は新聞コラム：短評記事(column)の白眉。現代では産経抄や天声人語に相当。大正5年から大正8年まで、主として大阪毎日新聞に掲載された。コラム担当者(columnist)は薄田泣菫。その高踏派的文章は解り易く、或は、滋味溢れる目線は、今日、現在に至るまで、他社の「新聞コラム」の追随を、逸もじゃないが、許さない、それ所か、差は益々開く一方とも云える。これはcolumnist御本人の知識、洞察力の差異、社会全体に対する関心の強さ、畢竟、読書量の差がモノを言う。Mischa Elman(Jascha Heifetz以前に

人気を博した、世界的なviolinist)が大阪、中之島の中央公会堂の柿落としに招かれた。演奏会の終了後に、2,000名収容可能な大会場で、自慢気な(褒めて貰いたい一心の) interviewer に応えて曰く「茲は violinの演奏会より大砲を試射する場所にこそ相応しい。大砲をね!」と嘯いた話なども収載されており、読む人間を厭きさせない。

蛇足ながら如何にも、茶話らしい小話を一遍。辿辿しい英語のinterviewと云えば1988年に来日した John McEnroe、相当にヤンチャな試合っぷりでもテニス界では名を馳せていたが、試合後の日本に於ける予定スケジュールをTV女子アナに聞かれ(Mischa Elmanほどには紳士的でない)、John McEnroe君は「Not your business!」と撥ね付けてしまった。この猛烈な返答を、紳士的な報道で鳴るNHKが如何に同時通訳したかは聞き漏らしてしまった。

